たんぽぽ祭り　あれこれ

校長　山田　浩之

たんぽぽ祭りは、三年～六年の各学級が一つずつ楽しい出店を出します。子どもたちは、その出店をたんぽぽ班で客役になって回ります。今年度のたんぽぽ祭りの流行は、お化け屋敷系出店と宝探し系出店でした。私が入ったお化け屋敷系出店は、窓の光を遮って薄暗くした教室の中を経路に沿って歩くものでした。途中、客を驚かせるような仕掛けがあります。私も、いつ、どこから驚かされるのか分からず、ドキドキしながら歩きました。私が入った宝探し系出店は、あらかじめ指定された宝物が複数個、教室内に隠されているので、それを探して見つけ出すものでした。見つかった宝物にポイントが割り振られていて、班で見つけた宝物の合計がその班のポイントということになります。

また、新たな出店の工夫も見られました。出店で遊ぶ時のルールや注意点を大型テレビに動画で映したり、タブレットで示したりしながら説明する様子が見られました。多くの出店では、一度にさばける人数が限られていて、入れないお客さんは、入口で待ちます。その時間を利用して動画で説明するのは、受付・説明業務の省力化にもなり、感心しました。

あれこれと校内を回っていると、出店に入るのを待っているグループに出会いました。六年生のリーダーが一年生の子どもに何か一生懸命に話しかけています。はっきり聞き取ることはできませんが、一年生が、次に入る予定になっているお化け屋敷系出店が怖いらしいのです。どの出店に行くかは、それぞれの班で前もって相談して決めてあります。それでも、低学年なら、怖いと思う子どもがいてもおかしくはありません。どうするのかな、としばらく見ていましたが、二人の話し合いは終わり、何か決まったらしいのです。その時、ちょうど前半と後半の入替の時間となりました。後で、そのリーダーに聞いたところ、一年生とは、次のようなことを相談していたそうです。「後ろの班の人に一年生を見ていてもらい、一年生は、自分の班の人がお化け屋敷から出てくるまで廊下で待つ」「見てもらうのは受付の係で一年生は廊下で待つ」「一年生が目をつぶって、耳をふさいでリーダーと一緒にお化け屋敷を駆け抜ける」

結局、リーダーと一年生が廊下で待つことになったのだそうです。

たんぽぽ祭りは、新潟小学校に笑顔をあふれさせてくれます。